

令和4年12月16日

白老町議会
議長 松田謙吾様

総務文教常任委員会
委員長 吉谷一孝

所管事務調査の結果報告について

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告します。

記

- 1 調査事項 (1) 町内小中学校の教育環境について
- 2 調査の方法 (1) 事務調査
(2) 現地調査
(3) 分科会懇談会
- 3 調査日程 (1) 令和4年10月27日(木) 事務調査
(2) 令和4年11月29日(火) 現地調査
(3) 令和4年11月29日(火) 分科会懇談会
(4) 令和4年12月6日(火) 事務調査
- 4 出席委員
委員長 吉谷一孝 副委員長 佐藤雄大
委員 前田博之 委員 大淵紀夫
委員 氏家裕治 委員 小西秀延
- 5 説明のために出席した者の職・氏名
学校教育課長 鈴木徳子 学校教育課指導主幹 小原 健
学校教育課主査 鍵井昭太
- 6 団体からの出席者
(1) 分科会
白老町立萩野小学校 校長 田村雅嘉 様 ほか1名

7 職務のために出席した者の職・氏名

議会事務局長 本間 力 主 査 八木橋 直紀

8 調査結果

(1) 町内小中学校の教育環境について

本委員会は、町内小中学校の教育環境について、担当課から説明を受けて、現状と課題、対策を把握し、今後の在り方を検討する所管事務調査を終了したので、その内容を次のとおり報告するものである。

① 小中学校の現状と課題について

小中学校は、令和4年10月1月現在、小学校4校444人と中学校2校246人、6校で合計693人である。平成25年との比較では、40%減の463人が減り、1年間で平均46人ずつ減っている。特別支援学級は小学校では11クラス28人、中学校は4クラス16人である。

児童生徒数が減少傾向にある中、小学校では竹浦小学校と虎杖小学校が複式学級となっている。遠隔授業の導入や修学旅行等の行事を小小連携による隔年実施等、課題の解消に努められているがさらなる教育環境や学校経営の充実が求められている。

教職員は、小中学校6校で83人、その他道教委の負担による時間講師、学習指導員、スクールサポートスタッフと町教委負担による学習支援員、特別支援教育支援員で21人となっており合計104人である。それぞれ各学校に必要な応じて配置しているが、学習指導員については一部で人材不足等により欠員が生じている状況である。

中学校の部活動の状況として、運動部への加入率は、白老中学校で41.7%、白翔中学校で56.4%、文化部への加入率は、白老中学校で23.8%、白翔中学校で8.2%と、いずれも減少傾向となっており、特に生徒数の減少に伴い運動部では既に個人種目が中心で団体種目の部活動ができなくなっており、一部では町外のクラブチームに参加している状況なども見受けられ、町として実態把握や生徒が希望する部活動の編成、保護者の負担軽減等が急務である。さらには部活動の専門的な指導ができる教員の確保が困難となっており、部活動指導員の確保や令和5年度から段階的に導入される「部活動の地域移行」においても早期に取り組まなければならない。

② 経済的支援について

令和4年度の要保護・準要保護の認定率は、児童生徒数693人に対して、要保護17人、準要保護175人、合計192人で27.6%である。

準要保護世帯は、106世帯で、一般家庭36世帯34%、母子家庭68世帯64.2%、父子家庭2世帯1.9%となっており、近年では一般家庭の割合が増えている傾向となっている。

また、平成28年度から準要保護の認定基準率を1.1から1.3に見直しし、

就学援助制度では、平成 30 年度より新入学用品費、令和元年度は P T A 会費及びクラブ活動費、生徒会費、令和 4 年度でアルバム代及び通信費が追加されている。

要保護・準要保護の認定率が依然として高い水準であり、これまで認定基準率の見直しや支給費目の拡充に取り組まれているものの、他市町村と比較しても本町の割合が高いため、認定基準率の引上げ等も含み経済的な支援措置が求められる。

③ 学力向上支援について

全国学力・学習状況調査では、過去 3 年間ににおいては全道及び全国平均ともに低調であったが、令和 4 年度において全国平均と同等あるいは上回る結果となった。一方で、標準学力調査では小中学校ともに全国平均より下回っており今後の課題であると捉えている。

学習する機会や挑戦する機会を保障する取組として、漢字検定や英語検定等が行われ、過去 5 年間では児童・生徒の挑戦する意欲が高まっている傾向にあり、特に英語検定では準 2 級以上の受検も増加している状況である。

今後も白老寺子屋や放課後学習等の充実を図ること、教育の質向上や学習支援員の確保など、より一層の充実を図ることが必要である。そのためにも家庭での学習環境の充実や保護者の理解が重要と捉える。

④ いじめ、不登校対策について

いじめの認知件数は、平成 27 年度から上昇傾向にあるが、積極的な認知を行い、年度内で解消することに努めており、重大事態につながるいじめはない状況である。

不登校児童生徒数は、令和 3 年度で小学校 10 人、中学校 22 人で、特に中学校の不登校生徒数が生徒総数 252 人対し 8.7%と割合が増加傾向となっている。その要因として小学校から不登校となっている児童が中学校に進学されていることや他からの転入による事案も多く、不登校児童生徒の対応として教育支援センターの通級やスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し対応している。

いじめ、不登校対策については、保護者の養育状況の変化や生活様式の多様化など家庭生活に起因するものが少なくないが、継続して子供を主体とした取組を充実、支援していくことが求められる。

⑤ 高校進学状況

本町の高校進学状況は、令和 3 年度は専修学校を含め 99%であり、全国及び北海道平均 98.9%と同程度であったが、令和 2 年度は 94.4%で平均より下回っており、各年度によって差が生じている。

進路先は、令和 3 年度卒業生では、白老東高校 14 人（14%）、苫小牧公

立高校・国立工専 40 人 (39%)、その他公立高校 13 人 (13%)、北海道栄高校 7 人 (7%)、苫小牧私立高校 6 人 (7%)、その他私立高校 3 人 (2%)、特別支援養護学校 4 人 (4%)、その他定時・通信学校 5 人 (12%) であり、就職・未定 2 人 (1%) となっている。

年度によって進学率が低い傾向となるのは、不登校児童生徒数や家業を継ぐこと等が要因と捉えているが、生徒が希望する高校へ進学できるよう、さらなる基礎的・基本的学力の定着を図り、学力向上を推進することが求められる。

【委員会意見】

本委員会としては、小中学校の教育環境の今後の在り方について、児童生徒数は出生率等の想定で減少傾向にあり、今後も各学校での学習面や生活面における学校運営全般で検証が急務であると捉える。

部活動については、児童生徒の減少により部活動の維持存続が困難となっており、「部活動の地域移行」に向けた施策など効果的な活動の推進が必要である。また、町外でのクラブ活動に参加する実態調査や対応策も必要であり、さらには貧困等を理由に部活動に参加できないでいる児童生徒の支援も検討すべきである。

経済的支援については、依然として要保護・準要保護の認定率の割合が高く、引き続き就学援助制度の充実や給食費の無償化、高校進学への支援等、支援の必要な家庭へのさらなる対策が必要であり、認定基準率についても近隣自治体で導入している基準率を 1.5 に引き上げることも検討すべきである。

また、各学校は災害時における緊急避難所として位置づけられていることから、地域の防災拠点としての機能強化を図るため必要な備蓄品等を充実すべきである。

教育環境の充実を図る政策は、地方創生においても重要な位置づけとなっており、町外からの移住定住を希望する子育て中の方々においても不可欠である。本町の人口減少対策においても結婚、出産、子育て、教育といった面的な施策を推進の視点で政策化に取り組むべきである。

上記意見の政策化にあたり、引き続き実態調査、方針決定、政策の遂行を組織的かつ効率的・効果的に展開されることを強く望むものである。

9 総務文教分科会

総務文教分科会は、学校運営協議会の運営等について各学校長と懇談を実施した。その内容については、別紙活動報告書のとおりである。

総務文教分科会の活動報告書

令和4年12月6日

総務文教常任委員会

委員長 吉谷 一孝 様

総務文教分科会

主査 佐藤 雄大

本分科会は、委員会の広聴活動として下記団体との意見交換を終了したので、以下のとおり報告いたします。

団体名： 萩野小学校、白翔中学校 校長 (参加者 2名)

日程・会場	令和4年11月30日、会場：白翔中学校 午後2時00分～午後3時00分
懇談テーマ	白老町内小中学校の教育環境について
出席委員名	主査 佐藤 雄大、副主査 吉谷 一孝、 委員 前田 博之、委員 大淵 紀夫、 委員 氏家 裕治、委員 小西 秀延
意見・要望事項	下記のとおり
活動報告 (処理・対応含)	<p>萩野小学校、白翔中学校との懇談は、両校長の出席により開催した。</p> <p>○学校運営協議会の運営状況について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 萩野小学校ではコロナの影響で今年度は書面による会議形式で実施し、今回は新しい学校評価について協議した。次回は2月を予定し全体では3回程度を予定している。・ 白翔中学校は対面で年に3回程度開催している。今年度は白翔中学校開校10周年ということもあり、学校祭の見学と記念の動画鑑賞を実施。多くのアドバイスを受けている。 <p>○小中学校の教育環境に対して</p> <ul style="list-style-type: none">・ 萩野小学校は校舎の改修により、明るく温かく綺麗な校舎となり、トイレ環境の他、感染対策にも対応している。また、学習支援員や学校司書の支援が充実していることは本町特有である。・ 白翔中学校は学力において各年代によって差異はあるものの、各小学校で実施している白老町スタンダードにより考

	<p>える力が定着している。3つの小学校から集まるため入学時には生徒が慣れるまで1か月程度かかるが、その後の行事等では団結力を見せている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動が少ないため、対策が早急に必要である。中体連の規則も厳しく、今後は地域移行、指導員の配置が重要であるが、放課後の時間帯での指導者不足が課題である。 ・学校内で集団でのいじめはないが、学校外においてSNS等を利用してのトラブルがある。対策として生徒会の生徒が講師になり、3学年混合でメディアコントロールの授業を実施し、SNS、メディアの危険性等を学んでいる。 <p>○白老町への提案・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十二間道路の横断歩道が危険であるため、整備してほしい。 ・校舎外の落ち葉が多く、回収してほしい。 ・子供の活躍の場を増やすべきである。 ・スクールバスがあることにより、部活動や放課後の勉強に励むことができるため今後も継続してほしい。 ・白翔中学校の体育館、放送設備を整備してほしい。 ・世代間交流の促進、白老全体での運動イベント（仮称白老オリンピック）の開催。 ・最低限の防災用品（毛布等）を常備すべきである。 <p>（まとめ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回、萩野小学校、白翔中学校との懇談を通して、改修を含め、子供たちの学習環境が充実していることを再確認した。今後もさらなる学習環境の充実に加え、安全性を確保した通学路やその他の施設整備が必要である。 ・クラブ活動や部活動等、世代間交流、地域交流の機会の創出、拡大を図り、地域と連携し、子供たち一人ひとりの可能性を広げていくことが重要であるとの認識が深まる有意義な懇談であった。
--	---